



戦争中、床島さんたちが「自分で自分の家を壊して」疎開道路が作られた(高浜神社前)

戦後の学校教育の中で、平和憲法を熱心に教えていたのが、いつの間にか平和教育が後退し、若い世代の中に無関心層が増えていったように感じます。国民投票を18歳からにしたのも、「若い世代ほど戦争を知らない」ので、「改憲に支持が集まる」と考えたのではないのでしょうか。

「やつてもムダ」というあきらめムードが一番こわいですね

田口 安倍さんは、外見はソフトなイメージがあつて、テレビ世代の政治家だと思えます。でもその政治は非常に怖い内容。憲法を変えようという、強引な政治に対して、私たち国民が草の根からの平和運動で立ち向かつてはいるのですが、マスコミが国民の運動をなかなか報道してくれません。9条の会に1万人もの人々が集まつていても、テレビは一切無視。結果として、「集会をやつても、パレードをしてもムダではないか？」というあきらめムードが漂いがちです。「やつてもムダ」というムードが一番怖いですね。

は紙切れになりました。

「話し合いで解決」  
憲法9条の精神こそ

紛争解決の道

有田 昔も今も「国民の保護」とか「自衛のため」という美名の下に戦争が計画されていくのですね。その意味では北朝鮮のミサイルや核実験を大々的に報道して、「攻めてこられる前にやつつけろ」「日本も核武装を」などという論調に、大変危険なものを感じます。

つなら核を」この考え方では際限ない軍拡競争で、いつかどこかで戦争が始まってしまふ。軍隊を持ちませぬ、戦争をしませぬ、争いごととは話し合いで解決しましよ。うという9条の精神こそ、紛争解決の道だと思えます。オーババーさんは、今やアメリカと言うとブッシュのイメージがあり、世界から悪く思われている。しかしアメリカ政府と市民は別。アメリカの巨大な軍事費を減らして、医療や福祉に回してほしいという反戦・市民運動が広がっているとおっしゃっていました。来年は日本で「9条世界会議」が開催されます。世界の多くの人々は「日本は9条を変えるべきではない」と応援し

# 変えるな 憲法9条

## 世界の人たち から応援が

どの事件もありましたが、結果として岸首相の訪米をストップさせ、首相の座から引きずりおろした。「若者が政治を変える」というエネルギーがありましたね。

田口 オーババーさんの講演会では、大学生にたくさん来てもらおうと、関西大学の校内で行ったのですが、参加者は私たちの世代の方が多かった。(苦笑)

有田 私たち市役所の労働組合でも、若い方に憲法の大切さを再認識してもらおうと、「職場レポート」を書いてもらっています。例えば生活保護の職場からは、憲法25条の「健康で文化的な最低限度の生活を営む権利」を守る立場から今の福祉を切捨てる現状に

対する意見を書いてもらったり、図書館司書からは、市民の「知る権利」を守る図書館の役割を書いてもらうなど、仕事を通して憲法を考える取り組みを進めています。

「有事の際の市民保護」計画は戦争へ協力する 態勢づくり?

床島 若い世代に伝えることと同時に、地域からの平和運動が大事です。例えば国民保護法に基づき、自治体ごとに「有事の際の市民保護」計画を立てることになりましたね。私は「市民保護」と言いながら、戦争に協力する態勢づくりだと見えています。吹田市はどのように対処しているのでしょうか？

有田 確かに国から「保護計画を立てるように」という指導のもとに計画が作られています。ほとんど市民に知らされていません。地震や台風など災害に関しては避難計画の必要性を感じますが、国が言うのは「戦争の際の保護計画」であつて、本来そんな指導に應じるべきではないと吹田市当局に申し入れました。実際は大阪府が策定したモデル計画をほとんどそのまま提出しているのだと思います。

神社の前に住んでいたのですが、「空襲に備える」と、立ち退き命令が出たんです。「疎開道路を作る」というのです。ええ、今は神社の前の広い道路になつてるところです。立ち退きに指定されて3日後に家を出る、と。地元消防団、つまり私たちが自分で自分の家を壊していった。つまり「国民を保護する」という名前の元に財産を奪われたのです。その代わりとして貰ったのが国債。2ヵ月後に終戦を迎えてその国債



有田 八郎さん

「国民の保護」や「自衛のために」…いつでもこんな美名のもとに戦争は準備されているのですね

大切なのは「大きな共同」をつくること、地道に続けること

床島 アメリカの大統領が民主党になれば、イラクでの政策は変わるでしょうが、日本への要求は変わらないでしょう。巨額の税金、ジャパンマネーを使って在日米軍は再編成されていくでしょうし、規制緩和、外資の買収で、国民の財産はアメリカに吸い上げられていくのではないのでしょうか？

オリックスの宮内さん、竹中郵政民営化担当大臣などは、アメリカ財界が望む役割を果たされたと思えます。憲法を変えろと圧力をかけているのもアメリカですから、アメリカの要求をいかに拒否するか、が問われていると感じますね。

せんが、地域は違います。全国各地には6000を越える9条の会が結成されています。あまり報道されないのですが、話題になりにくいかもしれませんが、地道に地域から声を上げていけば、きっと9条と平和を守っていけるのではと感じます。

床島 1972年に沖縄が日本へ返還される時、米軍基地を残したままの返還はダメだ、沖縄に平和を、という運動が広がりました。当時吹田は全国で初めて沖縄返還運動で社会・共産の両党が一致して運動に取り組んだところ。今の憲法を守る運動でも、地道に継続していけば、きっと幅広い運動につながっていくと期待しています。

有田 国会では「憲法を変えてしまえ」という声が強いかもしれません。

有田 国会では「憲法を変えてしまえ」という声が強いかもしれません。

有田 そうですね。吹田は榎原市長の時代から、全国に先駆けて「非核平和都市宣言」を行い、憲法手帳を配った地域です。今後も保守から無党派の人々までが参加できるような大きな共同を進めて行きたいと思つています。今日はどうもありがとうございました。